

文章生成 AI のもたらす学術情報等への影響について

—何が出来る？どう活かす？一緒に考えてみませんか—

橋本 郷史

東邦大学医学メディアセンター大橋病院図書室

企画概要

昨今、生成系 AI (Generative AI) が世間を賑わせています。それに関するニュースを聞かない日はないくらいです。学術情報の分野でも、GPT を始めとする文章生成 AI は大きな注目を集めており、すでに無視できない影響力を発揮しています。

文章生成 AI はその名の通り文章を作り出す AI ですが、その利用方法はそれだけにとどまりません。論文の検索やエビデンスの要約、研究における重要な視点の提供、研究手順の提示、データ解析を行うコードの生成など、この AI を活用した研究や論文作成を支援する様々な方法が生み出されています。一方で、その利用には注意すべき点があることも指摘されています。各大学からも利用に関する制限やガイドラインが発表されており、出版社は論文作成に使用する際のポリシーを設け始めています。

拒むと拒まざるとに関わらず、この新しい潮流からは逃れようがありません。ならば、乗るしかないこのビッグウェーブに。でもどうやって？この技術とどう向き合い、何に注意してどのように活かしていけばいいのでしょうか。圧倒的な情報量を前に、一人で調べ・考えられることには限界があります。まだ一人で消耗してゐるの？私がまさしくそんな消耗している一人です。この状態を解消するため、“みなさん”と意見や情報を交換し“一緒に”考えたい、と思いこの企画を立ち上げました。

最初に企画者から生成系 AI に関する基礎的な情報（仕組み、利用例、指摘されている課題・限界、学術界の反応など）を簡単に提供し、その後皆さんとディスカッションをしていきたいと思えます。私自身 AI の専門家ではありませんので、立場は皆さんと同じです。なお、本企画は、オンラインでも参加していただけるよう準備を進めています。たくさんの方の参加をお待ちしています。

参加される方へのお願い

生成系 AI について、ご自身の意見や利用・体験例、収集した情報などを、仕事・プライベート問わず、特定の分野に限定せず、身近なもので結構ですのでお持ち寄りください。

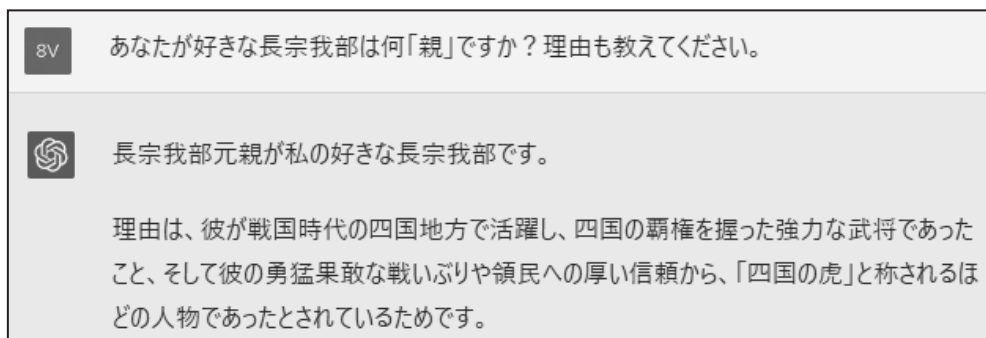


図 1. 開催地（高知）にちなんだ質問を AI にしてみた例。